第 2012-09 号

恵みと真理のニュース

2012 年 5 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　大事な先生の務めに任じられます。

私は永遠に滅亡されるしかない罪人が救われて神様を仕えながら生きていることを考えるといつも感謝が溢れます。また、私のために祈ってくれる人々がとても多いから私は幸せな人です。私のために祈っている母親、妹、子どもたちそして教区長、区域長、区域のみんなを考えると心がジーンとします。

私は不信家庭で生まれ、偶像崇拝する姿を見ながら育てられました。1990年高校に入学したとき、体育先生に伝道されました。そして、初めて恵みと真理教会へ行ってイエス様を受け入れました。しかし、父親の迫害が強くあったため隠れて教会に行きました。その年の夏、教会の修練会に参加して精霊のバプテスマを受けて家族の救いのために一生懸命に祈りました。高校のとき、体育先生は毎授業の15分間福音を伝えました。そして、入学するすべての学生を毎日3人ずつ保健室に呼び、伝道しました。学校ではイエス屋と呼ばれるぐらいとても強い信仰をもっている先生でした。精霊充満になった私は高校1、2年生の時に学生区域長なり3年生の時には首席区域長として働きながら信仰生活を整えました。

1993年から恵みと真理教会の教会学校補助先生として奉仕を始め、神様が与えてくださった賜物をもって一生懸命に奉仕をしました。初めて先生になって足りないことがとても多かったです。しかし、他の先生たちに助けられ賛美振付部、聖歌台、劇部など各種部活動をとおして子どもたちと一緒に頑張って奉仕をしました。

1999年11月、同じ教会学校の男の先生と4年間の交際後、結婚しました。当会長牧師先生の司式によってたくさん祝ってもらい、祝福されました。結婚の後からは義理の父親と一緒に暮らしました。2001年の夏、義理の父親が倒れてソウルの大きな病院に運ばれました。医者は心臓血管が破れていて手術ができない状態だと言いました。とても心配になって私たち夫婦が奉仕をされていた教会学校の先生たちや区域長のみんなに緊急祈りをお願いしました。“あなたがたのうちに病気の人がいますか。その人は教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリ―ブ油を塗って祈ってもらいなさい。信仰による祈りは、病む 人を回復させます。主はその人を立たせてくださいます。また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は許されます。”（ヤコブ5:14~15)みんなで一緒に祈り続けた3日後、とても驚くことがおきました。それは破れていて手術もできなくなった血管が自然に治っていたのです。破れたところが自然に詰まっていて治ったのです。それで集中治療室で 何日ぶりに目を覚ました義理の父親は夢で見たことを話しました。誰かが私に“あなたはここで横になってはいけない。退院しなさい。”という声が聞こえたと話しました。そして、神様が私を助けてくださったと言いながら涙を流しました。その後、元気な姿で退院することができました。そして、教会のすべての礼拝に参加して恵まれるようになりました。主日礼拝、週中礼拝、区域礼拝、家庭礼拝まで捧げながら信仰生活を続きました。ハレルヤ!!

長女が3歳、二女が2歳になった2004年、私は区域長、児童区域長と任命されました。幼い子どもたちがいたので頑張って働くことができるか、心配しました。しかし、神様がくださったから、と思いながら“アーメン”と答え従順しました。区域のみんなの子どもたちと娘たちの信仰成長のために頑張りました。

2005年、教会学校で「夏の聖書学校の賛美公募展」が開かれました。テーマが“きれいな実を結ぶ子ども”でした。考えてみたら、先週児童区域礼拝で“良い実を結ぼう”というメッセージが思い出しました。祈りながら歌詞とリズムを書いて応募しました。応募した二つの曲“良い木”、“きれいな実を結ぶ子どもたち”という曲が入賞しました。とても足りなかった曲でしたが神様が私に与えてくださった賜物で神様に栄光を捧ることができてとても嬉しかったです。今も大人区域長、児童区域長として神様の使命のために頑張っています。

2007年8月、私はもう一度神様の大きな恵みを体験することができました。父親が2005年度から恵みと真理教会に通いましたが、ある日、食道ガンが見つかれて入院することになりました。幸いなことで初期だったので手術も無事に終わりました。抗癌治療にも絶えず今は神様の恵みで完治しました。神様からもらった恵みがとても大きくてなんでも神様に捧げたい気持ちでした。

2007年度、教会学校の幼年部から総務と任命しますという話を担当伝道師先生から聞きました。急な予告だったので心配しました。幼年部は大きい部署だし、総務を私に、、、私は神様に祈りました。“神様私はいくら考えてもできません。”礼拝を捧げていた私に当会長牧師先生のメッセージの中で神様は私の祈りに答えてくださいました。“私たちは、この宝を、土の器の中に入れているのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。”（Ⅱコリント4:7)土の器のたとえ話を聞いて、私の能力でできることは何もない、神様が私を必要なところで使ってくださることを悟らせてくださいました。そして私は御言葉に従うことを決心しました。

今もとても大変なことがありますが、教会学校の総務として神様が適切な時期に耐える力を与えてくださいと祈り続いています。

2010年度にも神様が夏の聖書学校の賛美曲“イエス様に似ている。”が入賞しました。幼年部の子どもたちと神様が与えてくださった二人の娘たちと賛美や振付で神様に栄光を捧げるようにしてくださったこと感謝します。

神様の恵みの中で私と旦那は教会学校の幼年部、高等部の先生とし20年目奉仕を続けています。私たちはこれからも恵みと真理教会をとおして主が導いてくださる子どもたちや学生たちに神様の御言葉と愛で教え、信仰の中で成長できるように頑張ります。そして、親たちにもどうぞよろしくお願いします。

子どもたちを教会学校に送ってくれれば、みんなの信仰成長のために一生懸命に最善を尽くして教えます。神様に栄光を捧げます。

［信仰コラム］　夢とビジョンがある人

“神は言われる。終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。すると、あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る。”（使徒2:17）

人の肉身は環境、状況に制限されることがあります。しかし、心は自由でなのでもっと良い明日への希望をもつことができます。このような希望は他の言葉で夢、幻、ビジョンなどの言葉で呼ぶこともできます。私たちが気をつけるべきことは、どんな夢やビジョンをもつべきなのか、どんな根拠で夢とビジョンをもつのか、ということです。

第一、神様が叶えるために教えてくださる夢とビジョンがあります。神様の御言葉に従って、ガナアン地に入ったアブラハムは素晴らしい財力と軍士力を手に入れることができました。しかし、神様はアブラハムに子孫が栄えるビジョンを与えてくださったにも関わらず、子どもがいませんでした。アブラハムは妻のサラの権有で女下部のハガルをとおして息子を産みました。その結果、サラもアブラハムもとても辛い対価をはらいました。そして、アブラハムは神様の御言葉どおりに100歳になって息子のイサクを産むことができました。

また、神様はヨセフにリーダーになるビジョンと夢を与えてくださいました。ヨセフは兄弟たちによって奴隷として売買され、とても苦労しました。しかし、ヨセフは総理になりました。夢をもって夢への信仰をもっているからではなくて、神様がその計画をもっていらっしゃるから、神様の摂理によることでした。ただ、神様が夢をとおしてヨセフがビジョンをもち、苦難の中でも希望を忘れないで落ち着いて対応できるようにしました。

第二、私たちが自らもっている夢とビジョンがあります。夢とビジョンをもつことによって不可能にチャレンジする勇気を得ることができます。何事も意欲をもって努力することができます。また、苦難に耐えるようになり、喜びが溢れます。しかし、私たちがもつ夢とビジョンは偉大なことであり聖なることであるべきです。夢とビジョンを叶える方法も同じです。

平地でニムロドと人々が偉大なビジョンをもって城を建てていました。しかし、それは神様の御言葉に反することであり、聖なることでないため神様が彼らがやっていることを中止させました。聖徒たちは神様の御言葉に基づいた夢とビジョンをもつべきです。ヤコプはのがれの道で神様が与えてくださった御言葉を忘すれませんでした。ラバンの家で一生下部の生活をするしかない状況の中でもその約束の御言葉に頼りました。それで羊がしま毛の子羊を産むビジョンをもち、彼のビジョンと夢の上に神様の助けの恵みが訪れ、その所有が増えつつあり大金持ちになりました。

第三、全ての聖徒が一致してもつべき夢やビジョンがあります。それは福音を広く述べ伝えることです。イエス様が天に昇り、しもべたちが集まってイエス様の命令どおり精霊が来られること待ちながら五旬節の日が近づいたとき、集まっていたみんなが精霊充満を受け、精霊によってそれぞれ違う異言を言い始めました。これは本文のヨエル預言者をとおしておっしゃた話が叶えたことです。信じる者に精霊を注いでくださる理由はこの世のすべての人々に福音が述べ伝えられる、夢とビジョンをもってこれのために頑張ってもらうためです。

聖徒たちはこの三つの夢とビジョンをもってそれに相応しい行動をするべきです。神様が与えてくださったビジョンは神様が自ら決めた時に神様の方法で叶えてくださることを信じて待つべきです。神様の御言葉に基づいて神様の人柄に相応しい夢とビジョンをもって、神様の助けを求めながら積極的に努力するべきです。精霊充満を受けて一生懸命に福音を述べ伝えるべきです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

聖徒の生活方式

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書：マタイ6章25節～34節

聖徒と言うのは特別な性格を持った人たちです。出身と所属において特別です。このような事実を要約して記録されたのがコリント一書の 1：30 節です。
『神によってあなたがたはキリスト.イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。』
聖徒を〈キリスト人〉でも呼びます。キリスト人と呼ぶ名はバナバとパウロがアンデ-オックで一緒に使役した時、その地域の人がキリストを信じる人を区別して呼ぶようになった名から始まりました。
〈キリストの人〉〈キリストに属された人〉という意味を持った名前です。適切で相応しい称なので、教会がこの名を続けて使うようになりました。
〈聖徒〉という呼称は〈聖なる者〉〈神様から区別された者〉という意味です。
『神に愛され、召されて聖なる者となったローマの人たち一同へ。わたしたちの父である神と主イエス.キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。』（ローマ１：７）
『コリントにある神の教会へ、すなわち、至るところでわたしたちの主イエス.キリストの名を呼び求めているすべての人』（コリント一１：2）
それで〈聖徒〉という呼称は神の愛を受けてイエス.キリスト中で 聖なった人々に呼びわる名です。他に言ってキリスト人だけ使われる名です。聖徒はこのように区別された人なので当然に区別された生き方を持つようになります。聖書は聖徒らしい生活方式に対して記録しています。

第一、すべての物から軽重を判断して決めろと命じました。

マタイ 6 章 25 節 に**「だから、言っておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思い悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。」**
事物を対照してどれがもっと貴重であるか無いかを判断しなければなりません。それで、不十分の物に気を配ってもっと大事なことを喪失されるか毀損されないように注意すべきです。
イエスは語った。**『人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。』**（マタイ１６：２６）
ところで肉体の命も魂より大事ではないです。だから、**『人が全地と天を得ても自分の魂を失えば何の益であるでしょ』** と言えます。
人が生きて行くには 食べ物や衣服も大事です。しかし、食べ物と服のためにイエスを信じる信仰が持てないか信仰を喪失するようになったら悲劇中に悲劇です。
美味しく食べて、立派に着るために努力することは申し分ありません。しかし、そのような生活が魂より大事ではありません。イエス.キリストを信じる信仰より大事ではありません。
聖徒の皆さんはイエス.キリストを信じる信仰を大事に思ってください。

第二、まじめに働いて最善をつくしなさいと言いました。

マタイ6章26節、28節には**『空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。なぜ、衣服のことで思い悩むのか。野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。』**
『巣て居眠っている鳥を見なさいというのではなく空の鳥を見なさいと言いました。空の鳥はまじめに羽ばたきをしながら虫を捕ります』
野の百合がどんなに育つか考えて見なさいと言いました。野原の百合は土に根付けて風にもまれながら育ち花を咲かせます。
聖書には怠け者へ向けて忠告する教訓がたくさんあります。
『怠け者は鉢に手を突っ込むが／口にその手を返すことすらしない』（箴言１９：２４）。
箴言 6 章は怠け者には蟻様に行ってその働きを見て知恵を得なさいと言いました。
『怠け者よ、蟻のところに行って見よ。その道を見て、知恵を得よ。蟻には首領もなく、指揮官も支配者もないが夏の間にパンを備え、刈り入れ時に食糧を集める。
怠け者よ、いつまで横になっているのか。いつ、眠りから起き上がるのか。しばらく眠り、しばらくまどろみ／しばらく手をこまぬいて、また横になる。貧乏は盗賊のように／欠乏は盾を持つ者のように襲う』（箴言６:６-１１）
聖徒の皆さんは 一生懸命 にまいごと最善をつくす生活をなさってください。

第三、 思い悩むなと言いました。

マタイ 6 章２７節に**『あなたがたのうちだれが、思い悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか。』**31 節**『だから、言っておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思い悩むな。』**でした。
悩みは健康と幸せを害します。ところですべての心配が有害ではないです。二つの 悲しみがあります。有益な悲しみもあります。心配を大きくふたつに分けたら神の御心に適った悲しみと世の中の 悲しみがあります。
『神の御心に適った悲しみは、取り消されることのない救いに通じる悔い改めを生じさせ、世の悲しみは死をもたらします。』（コリント二７：１０）
神の御心に適った悲しみは敬虔に暮すための悲しみです。主の働きのための心配です。魂を救うための心配です。
このような心配は神様が共にして下さいます。それによって得られる報いや光栄や喜びが伴われます。
近寄る明日に対する思慮深い準備と対策は必要です。最善をつくした後に力が及ばない部分は心配せずに神様に任せます。
『それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。』（マタイ６：32 節）神様は私たちの必要なのが何かすべてを分かっておられます。
『だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。』（マタイ６：34 節）とおっしゃいました。
未来に関してちょっとでも考えないのは決して聖徒たちの生活方式ではありません。それは無謀な無責任の行為です。値段を支払うことができるかは考えなく、後払いで品物を買うことは不正直で無責任な事です。
始める事業に必要な資本がいくらなのかを考えなくて、無鉄砲に事業を始めたらそれは無謀で堪えない。
未来に対する計画や準備は必要です。しかし，心配せずに毎日を生きて行かなければなりません。
私たちにどんな事が発生しても，決して私たちが耐えない事は一つもないと聖書は言ってくれます。
『人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます』（コリントー１０：１３）
どんな事が私たちに迫って来るとしても私たちは心配せず充分対決できるように神様が助けてくださいます。
『しかし、言っておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。 今日は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ。』（マダイ６：２９-３０）
父の神様が私たちのためにイエス･キリストを送ったし,一人子イエス様は私たちの罪を贖われるため十字架に釘付け死にました。だから、聖徒の皆さんは何より貴重な者になったのです。空の鳥と野の百合より聖徒たちがもっと貴重です。不十分に貴重なものまで面倒を見るお方が貴重な私たちを疎かに思うわけがないです。空を飛ぶ鳥と野草の面倒を見る神様がそのお子さんを面倒を見ないはずがないです。
イエスが『まして、あなたがたにはなおさらのことではないか』とおっしゃった言葉を聖徒の皆さんは心配しない理由として取ってください。

第四、すべての事に順位を決めなさいと言いました。

マタイ６：３３節に**『何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。』**
何より神の国と神の義を求めなさいと言いました。神の国と神の義を求めることを最優先で思わなければなりません。
すべての事に神優先，神一番，神中心に行わなければなりません。何より神の国と神の義を求めなければなりません。
〈神の義〉を求めなさいと言いました。神の義とは〈主の義〉を意味します。神の義は人の努力と行為で成すことができません。神様が与える義を恵みで受けなければなりません。この恵みはイエス.キリスト中で与えるのです。イエス.キリストを信じて頼る者に与える神の義です。
何よりもまず、神の国と神の義を求める人は神の言葉に順従して、その言葉を信頼します。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられるとおっしゃいました。
聖徒の皆さんは特別に区別された人です。だから区別された生の方式を持った者になりました。イエス様の言葉が皆さんの生活方式で取ってあるのを不信者たちに証明しながら暮らすように祝福します。